

平成 30 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	平成31年1月29日	評価結果市町村受理日	平成31年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;kyosyoQi=0390200335-00&amp;Servi.ceQi=320&amp;Type=search">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;kyosyoQi=0390200335-00&amp;Servi.ceQi=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年2月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に忠実に、利用者様一人一人のペースでその人らしく生活が出来る事、またゆったりとした雰囲気作りで重点を置き、気軽にいつでも家族、地域の皆様が来ていただけるように明るい雰囲気づくりに心掛けております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街中の7階建てのビルの3階に事業所があり、1階に通所施設、2階が事務所となっている。「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく安心して送れるホーム」を理念に、職員は毎夕方、当日の振り返りを話し合い(ミニカンファレンス)、明日の確実なケアへ繋ぐことを目標にしている。午前と午後のひと時、職員の楽器伴奏により全員が明るい表情でコーラスを楽しんでいる。法人ではケアの向上を目標に、職員のスキルアップを目指し、資格取得を奨励する支援体制をとっている。開設から日が浅い事業所だけに、全職員が見聞を広め、理念の実践に向けた職員のレベルアップが楽しみなホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : あお空グループホーム向町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見える場所に理念を掲示しその意味を心に留め全職員で共有している。	利用者が自分たちのペースで安心して暮らせる雰囲気になりたいとの管理者の考えから理念を作り上げ、ホール中央に自らが理念を手書きして掲示している。毎夕方のミニカンファレンスでその日の振り返りを行い、翌日の確実なケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に近所への散歩などを通して少しづつではあるが良好な関係が築けている。	近くの薬局へ毎日散歩を兼ねて通う利用者を通して顔見知りとなり、薬局に神楽が立ち寄る際には、皆の椅子を用意して頂いたり、また局員から聴いて小学校の運動会に出掛け、子供達と交流する機会の確保に努めている。	運営推進会議委員に自治会役員や民生児童委員が加わり、地域との接点を持てるようになってきており、今後は、消防団、保育所、学校等、幅広い交流に努められることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に認知症を理解する場を設けている訳ではないが、運営推進会議ほか、近隣の方々が訪ねてきた場合は認知症の理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。その間の利用者様の生活の様子、その他の報告を行い、それに対し助言を頂いたり意見交換を行っている。頂いた意見や情報は、できる事から取り組みサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、自治会長、民生児童委員、行政関係者、利用者とその家族が委員として参画している。会議をホールで行い、他の職員や利用者にも会議の様子が周知出来ている。	地域に密着し開かれた事業所とするため、運営規程で運営推進会議委員を定めているが、今後は、会議内容に応じ消防、警察等の職員のオブザーバー参加を検討されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後や市役所訪問時など、お互い情報交換し合い協力している。	運営推進会議の際に広報を配布し、利用者状況等を行政にも伝えている。随時行政との情報交換を行い、お正月にお酒を提供している事例なども得ながら、支援の向上に繋げている。市からは、気象情報に即してその都度必要な情報が提供されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り等でスタッフ各々が利用者のケアを振り返り話し合っています。防犯上の理由から19:00～6:00までは玄関の施錠を行っているが、日中は施錠していない。	身体拘束委員会を3か月毎に開催している。スピーチロックと受け止められかねない場合には、夕方のミニカンファレンス時に管理者が中心になって改善策等について話し合っている。身体拘束に関するDVDの自己学習も行っている。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での勉強会を開催し、虐待の内容を理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者はおりませんが今後、研修等に参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お話を伺ったり十分な説明をして理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が本音を言える雰囲気を中心に、家族等が来所した際にも意見や要望を伺い反映させている。面会時に入居者の状況を伝え、意見等を聞いている。	事業所が街中にあるため、買い物ついでに立ち寄るなど、家族等の面会頻度が高く、職員に要望等を伝える機会となっている。食事時の席の配置や運動を兼ねた階段利用など、出された意見を支援に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に提案や意見交換する場を設けている。意見や提案がある場合はすぐ管理者に報告している。	管理者は職員からの提案には、「まずはやってみる」との姿勢で受けとめていることもあり、意見・要望を出しやすい雰囲気が出来ている。家族から届けられた雛人形の置き場所や飾り付け、テレビを見やすいソファの配置など、日常の介護を通じて得た気づきを改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、各々に目標を掲げ達成できる様に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得へ向けてのセミナーへの参加等にバックアップしています。 バランスをみて、スタッフ間のコミュニケーションが円滑に行くように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会の会議他、勉強や研修に参加し今後、他事業所との交流を深めていきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一人一人が本人に寄り添い、思いを傾聴しスタッフ間で情報を共有しながら、安心する環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、家族の立場になって要望など耳を傾け、話しやすい環境づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切に本人の意見、意志を尊重し、その人らしく生活出来る様な関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時状況に応じた対応、報告、面会、電話協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの電話や面会等は、本人や家族から確認を取りつつ関われる様に支援をしている。	お嫁さんが経営している美容室へセットしに自宅に戻る方、地元の敬老会に家族が連れて参加する方、お盆に帰省する方があり、以前の関係を断ち切らない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格など利用者間の関係を配慮しながら楽しく暮らせるよう支援している。ホール内の座席も状況を見ながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても会った際は、挨拶を交わし近況を伺って声をかけています。出来る限り相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中でご本人の意見、希望を把握し職員間で共有している。利用者の気持ちを尊重し支援している。	全利用者が会話で意思表示が可能であり、日々の対応から意向や思いを連絡ノートに記入し情報を共有している。「夜中に目が覚める」の話から、もう少しテレビを見てほしいとの思いを汲み取り、就寝時間を遅くする対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取り把握に努めている。本人が話す昔の事に耳を傾けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中、1日の過ごす状況の中で出来る事出来ない事を把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の会話、様子観察、家族及び関係者からの意見を聞き、スタッフでアイデアを出し合い、本人が安心して暮らせる様な介護計画を作成する様心掛けている。	入居時に本人・家族の意向を聴き取り、事業所が行った実態調査票や主治医意見書の情報を含め、管理者と計画作成担当者が話し合っって計画を作成している。連絡ノートや日誌から日々の支援を把握し、原則3ヵ月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の各種記録、連絡ノートの活用、申し送り等情報を共有し支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてその都度話し合い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	街の催し物他、デイサービスのボランティア訪問に参加するなど楽しく豊かな暮らしができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じた内科、皮膚科、眼科、、本人や家族が希望する病院、主治医に継続的に受けられるよう支援している。	利用者は全員入居前のかかりつけ医となっている。通院は6割の家族が対応し、対応出来ない場合には職員が対応している。家族には口頭又はメモで健康等の状態を報告し、家族から口頭でもたらされた受診結果は、連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や気づきなど常時報告し、指示を仰ぎ適切な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き、家族を交え情報交換し退院まで安心できるよう努めている。また、看護師にも情報提供し利用者の方が安心して過ごせるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院、家族と連携を取りながら施設で出来ること、出来ない事を話し合い、出来るだけ家族の思いに近づける様に支援している。	看取りを行っていないことは入居時に本人・家族に説明し、理解をいただいている。一階にあるデイサービスの看護師と連携し、家族・主治医と相談の上、適切な医療に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで勉強はしているが今後、心肺蘇生やAED使用方の訓練を通じて、緊急対応のスキルアップを図っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜想定避難訓練を行っている。水害等の災害時は避難ビルとなり、地域住民との協力体制を築いている。	ハザードマップの浸水区域ではあるが、事業所が入居する7階建ての建物は、災害時の避難ビルとなっている。2人1組で利用者を階下に降ろす火災を想定した夜間避難訓練を行っている。夜間には上階の住人の協力が得られる体制となっている。	ビル内にある事業所の特性を踏まえ、火災時の避難等について、運営推進会議のテーマとして、消防関係者からの指導・助言の下での訓練を重ねられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者への尊厳を大切に支援するよう心掛けている。	笑顔づくりを心掛け、毎夕方のミニカンファレンスで振り返りをしながら、理念に沿った人格を尊重する支援に努めている。入浴は同性介助により、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。職員の伴奏による利用者全員のコーラスは、利用者自身の自己実現の一端でもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者が持つ思いなど自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、食事など利用者のペースを大切に、希望にはできるだけ添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度ぐらい利用者それぞれ近所の床屋、美容室に来ていただき散髪している。好みの服装、買い物支援など個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食材の皮むき等の準備他、盛り付けや食器拭き等一緒に行い、食事は見た目にも配慮している。	冷蔵庫にある食材に応じて、当日の調理担当者が献立を作っている。誕生日には手巻き寿司やケーキが恒例になっている。利用者は、近くのスーパーへの買い物、食材の皮むき、盛り付けなど職員と一緒に食事の準備や片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分補給量を記録し、利用者の状況に応じて食事形態の変更もやっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け見守り、または一部介助し義歯洗浄、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜排泄チェック表を活用し、1日の回数を把握している。様子を見て声掛けし自立支援に繋げている。	日中は布パンツ2名、リハビリパンツ6名、1名が夜間のみおむつを使用している。夜間の失禁を心配し職員へのコールが頻回な方へ、不安を和らげる声掛けや服薬を控える取り組みにより、トイレで自立した排泄が出来る支援につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェック表で把握し、ヨーグルトなどの乳製品を取り入れたり、日頃からバランスの良い食事を心掛けている。他、毎日ラジオ体操を日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定者には声掛けし今日はお風呂ですよと理解を促しているが、本人の希望やタイミングに合わせて支援をしている。	基本として週3回毎日2～3人が午後に入浴している。希望者には毎日入浴実施している。車椅子の方には一階にあるデイサービスの機械浴利用も行っている。入浴の順番があるが、拒否する方には日程をずらす工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は本人のペースで行っている。ほとんどの方が日中はホールで過ごされているが、休みたい時は昼寝をされたり、ゆったりと過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、用法、用量、副作用などすぐに確認できるようにしている。薬の変更があった場合は看護師に報告して特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業のお願い、自分の役割として作業中、終了後の感謝の言葉を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に極力沿い、ドライブや散歩、買い物など外出支援を行っている。近所のお店までの散歩が日課となっている利用者様もいて、ふれあいの場所になっている。	毎日近くの薬局へ散歩を兼ねて出かけ、会話する関係が出来ている。また近くのスーパーへ職員と食材の購入に出かけている。通院後家族と共に外食される方もいる。施設前がお祭りや、マラソンのコースのため、沿道に出て声援を送る機会にもなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方はいないが、ご家族から預り金として管理し、外出時には自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも自由に電話できる体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様ほぼ日中ホールで過ごし、テレビを観たり、気の合う同士が会話をしたり、リラックス出来るよう支援している。日がまぶしい時はカーテンを下げたりと調整している。	一人掛けソファ2台・食卓4台・大型テレビ1台・エアコン1台が配置されたホールは床暖房でほど良い温度設定が保たれている。利用者家族から届けられたひな人形に合わせた飾り付けや、お正月には一人ひとりの願いを書いた絵馬を飾りつけるなど四季折々の季節を感じさせる工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に自分の場所は決まっているが、利用者、ご家族からの要望があった場合は変更を検討したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を聞き本人の使用している物、馴染みの物を置いて本人が安らぐ様に支援しています。	床暖房の居室には、クローゼットが備えてあり、電動ベッド・小箆箆・耐火用カーテンが準備されている。居室入口には表札がありテレビ・家族写真・カレンダー等が持ち込まれ、個々に応じた工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付のわかるようカレンダーや、自室がわかる工夫、トイレ等声掛けによる自立支援をしている。		